

Vendley 事務総長 スピーチ

皆さま、「ARMS DOWN!」の閉会式典に皆様を厳粛に、また喜びを持って歓迎いたします。

兵器と開発の間のリンクと尊厳とは破壊的でグロテスクで、人々が持つ美しさと、おかしではない尊厳を迫害するものです。我々は極端な貧困をなくすために必要な基本的ニーズより多くの額を兵器購入に使っています。この事実を知っている人は誰だってこれは間違っていると分かるでしょう。変化が必要です。

我々は大量破壊兵器を製造して、備蓄しています。そしてそれらを破壊する力を使うことによって命を守ると議論します。それは、この世界に存在するという「贈り物」をあざけているのと同じことです。また、もっとも貧しい国々で小型兵器を売買しています。子供たちに本ではなく銃を持たせているのです。

同時に、同じ人間が極度の貧困から這い上るのに必要なわずかなものを拒否されるのを黙って見えています。極度の貧困とは、容赦ない運命ではありません。私たちができることをやっていないから継続しているのです。多くの国がミレニアム開発目標を達成できていません。我々宗教者にとって、それらの人々は赤の他人ではありません。自分の宗教コミュニティのメンバーたちなのです。

このように耐えがたい苦しみに耐え、無知であり続け、沈黙を維持しているという 厳しい現実が我慢できないのであれば、「ARMS DOWN! キャンペーン」に参加した青年たちに敬意を表したいと思います。

特に私が誇りに思っていることは、WCRPのグローバル・ユース・ネットワークです。

このネットワークの青年たちが「ARMS DOWN! キャンペーン」を主導してきました。彼らは明確なモラルと情熱を持ち、軍事費削減と、神が与えた可能性を残酷に無駄にする 貧困を克服することを繋げて取り組みました。WCRPの青年は、私たちができることをするように、呼びかけています。軍事費の10%削減、そして同じ額を開発に投資するのです。毎年1%削減するだけで、これまでの流れを逆転することができるのです。

WCRPは70カ国以上の国で活動をしており、今年は40周年を迎えました。創立当時から各宗教の違いを尊重し、同じ行動をとることにコミットメントを示してきました。WCRPは冷戦の最中に生まれ、当時の宗教指導者は、核兵器の敏感な引き金を遠ざけようと、活動しました。彼らは自分の教団のメンバーに平和構築のトレーニングした後、各国の元首に呼びかけました。彼らは国連本部だけでなく、モスクワ、ワシントン、北京などをまわり、一生の友達と道徳的な同盟関係を築きました。

当時の頑固な現実主義者はWCRPを創設した宗教指導者のことをナイーブだと思いましたが、でも冷戦が終わったときには皆ほっとしました。暗くて先の見えないトンネルに光が見えたのです。できそうに無いことを達成することが可能に思えてきました。でも多くの人の協力があってのことでした。

今、我々は貧困と兵器の間の悪性のリンクを着る勇気持たなければなりません。世の中にはびこるモラルの病気に気が付かない人もいますでしょう。兵器に多額を投資していれば安全だ、とか、貧しい人は自力で貧困から這い上がるべきだ、などという人もいますでしょう。また、現状維持を求める政治的、また経済的な利害関係の中で、変化など起こせないと思う人もいますでしょう。兵器と貧困のリンクは切れなれないと言う人悲観的な人はいくらでもいます。でも歴史を振り返れば、宗教では、一握りの確信を持った人たちが人々の考え方を変えることができるということがわかるでしょう。ひとつの、パワフルでモラルのあるコミットメントは、純粋な協力の連鎖を引き起こすのです。あるところでなされた努力が予想していなかったところで実ることもあるのです。

今はこれまで以上に兵器と貧困のリンクをきるために多くのパートナーシップが必要とされています。宗教コミュニティ、各国政府、国連、企業や市民社会が協力してこの醜いリンクを壊さなければなりません。色々な面で努力が積み重ねられており、「ARMS DOWN!」が必要な団結を生み出す引き金となるでしょう。

皆様、多くの宗教を持つ青年たちが団結しました。彼らは140カ国で人々に語りかけました。今日、彼らの努力がはじめて実りました。この実りとは、これからのアクションの踏み切り板となるでしょう。そしてこの実りが人類の発展につながることでしょ

Thank you.

(了)